

英語

I	問1	1	4
		2	1
		3	3
		4	2
		5	1
	問2	6	1
		7	5
		8	3
		9	1
		10	4
	問3	11	4
		12	5
		13	3
		14	2
		15	5

II	16	2
	17	1
	18	3
	19	4
	20	2
III	21	1
	22	2
	23	2
	24	5
	25	3
	26	2
	27	5
	28	1
	29	2
	30	4

IV	31	3
	32	4
	33	3
	34	5
	35	5
	36	4
V	37	3
	38	8
	39	7
	40	4
	41	6
	42	1

数学

【1】 次の□にあてはまる答を下の解答欄に記せ。ただし、(5)において、必要ならば  $\log_{10} 2 = 0.3010$  を用いてよい。

(1)  $OA : OB = 1 : 3$  である三角形  $OAB$  において、辺  $AB$  の中点を  $M$ 、線分  $OM$  を  $1 : 2$  に内分する点を  $N$  とし、 $\angle AOB$  の大きさを  $\theta$  とする。

- (i)  $\vec{OA} = \vec{a}$ 、 $\vec{OB} = \vec{b}$  とするとき、 $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  を用いて  $\vec{NA}$  を表すと、 $\vec{NA} = \square(\text{ア})\vec{a} - \square(\text{イ})\vec{b}$  である。  
 (ii)  $\vec{ON}$  と  $\vec{NA}$  が垂直であるとき、 $\cos \theta$  の値は  $\square(\text{ウ})$  である。

(2)  $(x+2y+3z)^6$  の展開式における  $x^4y^2$  の係数は  $\square(\text{エ})$  であり、 $x^3y^2z$  の係数は  $\square(\text{オ})$  である。

(3) 点  $(x, y)$  が不等式  $x^2 + y^2 \leq 4$  の表す領域を動くとする。このとき、 $3x+y$  は、 $x = \square(\text{カ})$ 、 $y = \square(\text{キ})$  において最大値  $\square(\text{ク})$  をとり、 $x = \square(\text{ケ})$ 、 $y = \square(\text{コ})$  において最小値  $\square(\text{サ})$  をとる。

(4)  $A, B, C$  3つの袋があり、 $A$  には赤球2個と白球2個、 $B$  には白球1個と青球3個、さらに、 $C$  には赤球2個と白球1個と青球1個が入っている。いま、 $A$  から1個の球を取り出し、 $B$  から1個の球を取り出し、 $C$  から1個の球を取り出す。

- (i) 取り出した3個の球の色が1種類となる確率は  $\square(\text{シ})$  である。  
 (ii) 取り出した3個の球の色が2種類となる確率は  $\square(\text{ス})$  である。  
 (iii) 取り出した3個の球の色が3種類となる確率は  $\square(\text{セ})$  である。

(5) 条件  $a_1 = 5$ 、 $a_{n+1} = 2a_n - 3$  によって定まる数列  $\{a_n\}$  の一般項は  $a_n = \square(\text{ソ})$  で与えられる。この数列の初項から第  $n$  項までの和を  $S_n$  とおくと、 $S_8$  の値は  $\square(\text{タ})$  であり、不等式  $\frac{S_n}{3} > n + 16666$  を満たす正の整数  $n$  のうちで最小のものは  $\square(\text{チ})$  である。

解答欄

(1) (ア)	$\frac{5}{6}$	(イ)	$\frac{1}{6}$	(ウ)	$\frac{1}{3}$	(2) (エ)	60	(オ)	720		
(3) (カ)	$\frac{3\sqrt{10}}{5}$	(キ)	$\frac{\sqrt{10}}{5}$	(ク)	$2\sqrt{10}$	(ケ)	$-\frac{3\sqrt{10}}{5}$	(コ)	$-\frac{\sqrt{10}}{5}$	(サ)	$-2\sqrt{10}$
(4) (シ)	$\frac{1}{32}$	(ス)	$\frac{21}{32}$	(セ)	$\frac{5}{16}$						
(5) (ソ)	$2^n + 3$	(タ)	534	(チ)	15						

【2】 行列  $A, B$  を  $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 4 \end{pmatrix}$ ,  $B = \begin{pmatrix} 4 & -2 \\ -2 & 1 \end{pmatrix}$  とおく。以下の間に答えよ。

(1)  $B^2, AB, BA$  を求めよ。

$$\begin{aligned} B^2 &= \begin{pmatrix} 4 & -2 \\ -2 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 4 & -2 \\ -2 & 1 \end{pmatrix} & AB &= \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 4 & -2 \\ -2 & 1 \end{pmatrix} & BA &= \begin{pmatrix} 4 & -2 \\ -2 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 4 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 16+4 & -8-2 \\ -8-2 & 4+1 \end{pmatrix} & &= \begin{pmatrix} 4-4 & -2+2 \\ 8-8 & -4+4 \end{pmatrix} & &= \begin{pmatrix} 4-4 & 8-8 \\ -2+2 & -4+4 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 20 & -10 \\ -10 & 5 \end{pmatrix} & &= \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix} & &= \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

答  $B^2 = \begin{pmatrix} 20 & -10 \\ -10 & 5 \end{pmatrix}$ ,  $AB = \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$ ,  $BA = \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$

(2) 正の整数  $n$  に対して、 $A^n$  を求めよ。

ケーリー・ハミルトンの定理より、 $A^2 = 5A \cdots \textcircled{1}$ 。よって、等式  $A^n = 5^{n-1}A \cdots \textcircled{2}$

よって、 $n=k+1$  のとき、 $\textcircled{2}$  は成り立つ。

がすべての正の整数  $n$  について成り立つことが推測される。以下、これを数学的帰納法によって示す。

[1], [2] より、 $\textcircled{2}$  はすべての正の整数  $n$  について成り立つ。

[1]  $n=1$  のとき、 $\textcircled{2}$  は明らかに成り立つ。

よって、すべての正の整数  $n$  に対して、 $A^n = 5^{n-1}A = \begin{pmatrix} 5^{n-1} & 2 \cdot 5^{n-1} \\ 2 \cdot 5^{n-1} & 4 \cdot 5^{n-1} \end{pmatrix}$

[2]  $n=k$  のとき、 $A^k = 5^{k-1}A$  が成り立つと仮定する。 $n=k+1$  のとき、 $\textcircled{2}$  の左辺を考えると、

$$\begin{aligned} A^{k+1} &= AA^k \\ &= A \cdot 5^{k-1}A \\ &= 5^{k-1}A^2 \\ &= 5^{k-1} \cdot 5A \quad (\textcircled{1} \text{より}) \\ &= 5^k A \end{aligned}$$

$$\text{答 } A^n = \begin{pmatrix} 5^{n-1} & 2 \cdot 5^{n-1} \\ 2 \cdot 5^{n-1} & 4 \cdot 5^{n-1} \end{pmatrix}$$

(3) 正の整数  $n$  に対して、 $(A-2B)^n$  を求めよ。

ケーリー・ハミルトンの定理より、 $B^2 = 5B$ 。よって、等式  $B^n = 5^{n-1}B \cdots \textcircled{3}$

がすべての正の整数  $n$  について成り立つことが、(2) と同様に示される。

[④-1], [④-2] より、④はすべての正の整数  $n$  について成り立つ。

また、(1) より  $AB=BA=0$  であるから、

(2) の②と③を④に代入すると

$$(A-2B)^2 = (A-2B)(A-2B) = A^2 - 2AB - 2BA + (-2)^2 B^2 = A^2 + (-2)^2 B^2$$

$$(A-2B)^n = 5^{n-1}A + (-2)^n \cdot 5^{n-1}B$$

$$(A-2B)^3 = \{A^2 + (-2)^2 B^2\}(A-2B) = A^3 + (-2)A^2 B + (-2)^2 B^2 A + (-2)^3 B^3 = A^3 + (-2)^3 B^3$$

$$= \begin{pmatrix} 5^{n-1} + (-2)^{n+2} \cdot 5^{n-1} & 2 \cdot 5^{n-1} + (-2)^{n+1} \cdot 5^{n-1} \\ 2 \cdot 5^{n-1} + (-2)^{n+1} \cdot 5^{n-1} & 4 \cdot 5^{n-1} + (-2)^n \cdot 5^{n-1} \end{pmatrix}$$

よって、等式  $(A-2B)^n = A^n + (-2)^n B^n \cdots \textcircled{4}$

がすべての正の整数  $n$  について成り立つことが推測される。以下、これを数学的帰納法によって示す。

が、すべての正の整数  $n$  について成り立つことが示される。

[④-1]  $n=1$  のとき、④は明らかに成り立つ。

[④-2]  $n=k$  のとき、 $(A-2B)^k = A^k + (-2)^k B^k$  が成り立つと仮定する。 $n=k+1$  のとき、④の左辺を考えると、

$$\begin{aligned} (A-2B)^{k+1} &= (A-2B)(A-2B)^k \\ &= (A-2B)\{A^k + (-2)^k B^k\} \\ &= A^{k+1} + (-2)^k AB^k + (-2)BA^k + (-2)^{k+1} B^{k+1} \end{aligned}$$

よって、 $AB=BA=0$  であることを用いると、 $AB^k=BA^k=0$  であるから

$$(A-2B)^{k+1} = A^{k+1} + (-2)^{k+1} B^{k+1}$$

したがって、 $n=k+1$  のとき、④は成立する。

答  $(A-2B)^n = \begin{pmatrix} 5^{n-1} + (-2)^{n+2} \cdot 5^{n-1} & 2 \cdot 5^{n-1} + (-2)^{n+1} \cdot 5^{n-1} \\ 2 \cdot 5^{n-1} + (-2)^{n+1} \cdot 5^{n-1} & 4 \cdot 5^{n-1} + (-2)^n \cdot 5^{n-1} \end{pmatrix}$

【3】 以下の間に答えよ。

(1) 関数  $f(x) = \frac{\log(x+1)}{\log x}$  ( $x > 1$ ) の導関数  $f'(x)$  を求めよ

$$f'(x) = \frac{\{\log(x+1)\}' \cdot \log x - \log(x+1) \cdot (\log x)'}{(\log x)^2}$$

$$= \frac{\frac{1}{x+1} \cdot \log x - \log(x+1) \cdot \frac{1}{x}}{(\log x)^2}$$

$$= \frac{x \log x - (x+1) \log(x+1)}{x(x+1)(\log x)^2}$$

$$\text{答 } f'(x) = \frac{x \log x - (x+1) \log(x+1)}{x(x+1)(\log x)^2}$$

(2) 次の不等式を証明せよ。

$$\log_3 2 < \log_4 3 < \log_5 4 < \log_6 5 < \log_7 6 < \log_8 7 < \log_9 8 < \log_{10} 9$$

$$g(x) = \frac{1}{f(x)} \quad (x > 1) \text{ とおくと,}$$

$$g'(x) = -\frac{f'(x)}{\{f(x)\}^2} \dots \text{①}$$

一方,  $x > 1$  において,  $0 < x < x+1$ ,  $0 < \log x < \log(x+1)$  であることより,

$x > 1$  において,  $x \log x < (x+1) \log(x+1)$

よって, (1)より,  $x > 1$  において,  $f'(x) < 0 \dots \text{②}$

①, ②より,  $x > 1$  において  $g'(x) > 0$  であることより,

$g(x)$  は  $x > 1$  において増加する。

したがって,

$$g(2) < g(3) < g(4) < g(5) < g(6) < g(7) < g(8) < g(9)$$

すなわち,

$$\frac{\log 2}{\log 3} < \frac{\log 3}{\log 4} < \frac{\log 4}{\log 5} < \frac{\log 5}{\log 6} < \frac{\log 6}{\log 7} < \frac{\log 7}{\log 8} < \frac{\log 8}{\log 9} < \frac{\log 9}{\log 10} \dots \text{③}$$

③に底の変換公式を適用して,

$$\log_3 2 < \log_4 3 < \log_5 4 < \log_6 5 < \log_7 6 < \log_8 7 < \log_9 8 < \log_{10} 9$$

以上より, 題意は証明された。

物理

I	1	7
	2	5
	3	7
	4	7
	5	5
	6	2
	7	5
	8	6
	9	4
	10	7
	11	4
	12	9
	13	4
	14	4

II	15	9
	16	17
	17	14
	18	5
	19	3
	20	11
	21	12
	22	15

III	23	1
	24	1
	25	9
	26	2
	27	1
	28	3
	29	12
	30	3

化学

I	[1]	1	9
	[2]	2	5
	[3]	3	2
	[4]	4	8
	[5]	5	6
	[6]	6	7
	[7]	7	8
	[8]	8	6
II	[1]	9	10
	[2]	10	4
	(1)	11	3
	[3] (2)	12	5
(3)	13	3	
III	[1]	14	1
	[2]	15	4
	[3]	16	3
	[4]	17	6

IV	[1]	18	1
	[2]	19	10
	[3]	20	1
	[4]	21	3
V	(1)	22	5
	[1] (2)	23	2
	(3)	24	6
	[2]	25	8

生物

I	1	1
	2	5
	3	5
	4	4
	5	1
	6	6
	7	7
	8	5
	9	5
	10	1
	11	2
	12	6
	13	5
	14	7
II	15	8
	16	10
	17	6
	18	3
	19	14
	20	5
	21	1
	22	9
	23	9
	24	5
	25	3
	26	6
	27	7
	28	3
	29	1
	30	3

III	31	14
	32	9
	33	12
	34	1
	35	14
	36	14
	37	8
	38	13
	39	6
	40	2
	41	2
	42	6
	43	9
44	3	
45	6	
46	2	
47	7	